

NPO法人ゆう副理事長

荻野ます美

朝の一筆

4月2日は国連

が定めた『世界自閉症啓発デー』。日本でも2日から8日までの1週間を『発達障害啓発週間』と位置づけ



て、シンポジウムやブルーライトアップなどが行われている。

昨年は東京タワーや坂本龍馬像なども青く染まっていた。愛知でも今年には名古屋栄のテレビ塔がライトアップされる予定とのことで、自閉症者の母としてはうれしい限り。

16年前、医師から「お子さんは自

閉症です」と言われた時、私には自閉症に関する知識が全くなかった。

「自閉症？なんですか？こんなに元気でよく笑っているのに。ちゃんと愛情もって育てて来

なる病気」と勘違いしていたと思つた。

自閉症の人は脳の発達の仕方が少し違っていて、人の気持ちを読むのが苦手だったり言葉適切に使えなかつたりする。一

自閉症ってなに？

「自閉症？なんですか？こんなに元気でよく笑っているのに。ちゃんと愛情もって育てて来たんだから、そんなはずない！」と思っていた。

おそらく当時の多くの人が同じように「自閉症は殻に閉じこもった人」親の育て方が冷たかったから

守る律儀者で、単純作業が得意。おかげで毎日元気に働いている。

「自閉症なんて自分とは関係ないこと、と私も20年前までは思っていた。多分、大多数の人が今もそう思っているだろう。

でも、ちょっと想像してみたい。例えば駅やスーパーで同じ言葉を繰り返していたり、びよんびよん跳びはねている人を見て「何あれ？怖い」と感じるより「世の中いろ

んな脳のタイプの人がいるからね」とスルーできず、心が穏やかに過ごせてラクなんじゃないだろうか。

自分とは関係なくとも、知っての方がきつとお得。それに、関係ないと思っても、何が起るかわからないのが人生。

青く染まったスカイツリーや通天閣を見て「なんだけ青いの？」から始まる「自閉症ってなに？」に期待したい。